

実施日：11月4日（火）	
教科等：総合的な学習の時間	
取組名：多様な性について 第2回	
対 象：全学年	実施場所：各教室
ア ねらい カミングアウトとアウトティングについて学習し、命に関わる問題となることを学び、誰に対しても相手に寄り添い尊重できる心を育む。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 導 入 前時の復習をする。 前時で学習をした多様な性についての基礎知識をふり返り、本時の学習のねらいを確認する。 展開① 人権啓発ビデオ「きみともだちでいたいから」を視聴する。 【留意点】 「ホモかよ」という表現がでてくるが、これはLGBTQ+の当事者に対する蔑称であることをおさえる。冗談でも使わない。 ・ ユースケはどうしてジュンゴに自分のことをはなしたのか考える。 【予想される意見】 引越しが近くなって離れてしまう前に本当の自分を伝えたかった。 ジュンゴなら信頼できると思ったから。 ・ ユースケはどうして「誰にも言わないって約束して」と言ったか考える。 【予想される意見】 自分が周りにどう思われるか不安。信頼できる人にしか知ってほしくない。 展開② カミングアウトとアウトティングについて理解を深める。※『きらめき』P.4～P.5 ・ カミングアウト 本人が自分のセクシャリティなどについて自分が選んだ人に話すこと ・ アウトティング 第三者が本人の同意なく、他の人にその人のセクシャリティを伝えること 展開③ アウトティングの問題点について考える。 ※『きらめき』P.4～P.5 アウトティングは秘密の暴露であり、プライバシーの侵害になることを伝える。本人の人権や尊厳を著しく傷つける重大な人権侵害に当たることを理解させる。 展開④ カミングアウトを受けたときの対応を考える。※『きらめき』活用の手引きP.21 カミングアウトを受けたらどのような対応が必要か、どのように聞いてもらえたら安心するかを考えさせる。その後、留意点を確認する。 まとめ 本時の気付きや感想をワークシートに記入する。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 人権参観日に取り扱う内容であり、家庭でも学校でどのようなことを学習したのかを話し、家庭でも学習を深めることを促す。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 担当者（各学年1名）で集まり、教材研究を行う。その後、学年内で担当者を中心に研修を行い、学習のめあてや留意点を授業者間で共通理解している。	
カ 評価の方法 ・ ワークシート ・ 発表	
キ 成果 命に関わる重大なことを自分ごとに捉え、真剣に学習する生徒が多く見られた。	
ク 課題 カミングアウトを受けた場合の留意点を共有することが重要だと感じた。	